

## 編集後記

この8巻1号の巻頭では、東京大学大学院の本田由紀教授に専修学校専門課程に即した分析をお願いしたところ、職業教育の構造についての分析と、直面する課題についての鋭い指摘をいただきました。これからの職業教育に携わる者皆が対応策を考える上での重要な手掛かりが示された論文を寄稿していただいたことに心より感謝いたします。

「資本主義の多様性」という論議の中で、日本の職業教育は「分節主義的スキル形成システム」といわれるような企業内教育に重点を置く社会と位置付けられてきたようですが、「実際には専門学校を含む短期高等教育プログラムが、学力や学歴の獲得とは異なる価値基準をもつ層に対して、企業を超えて通用する職業スキルや資格、社会人としての育成を提供している」という指摘は、現状認識の修正を迫っています。専門学校は、こうした業界の立ち位置の再確認から、新たな産学連携および行政管理の課題に対する挑戦をしていかなければならないと思います。

今日の技術革新と政府各省の政策研究及び経済界の取り組み動向などを総合的に判断すると、おそらくケアのデジタル・トランスフォーメーションは、職業教育を担っている業界の新しいビジネスモデル構築を迫るものとなるでしょう。それは、職業教育を受ける学生に修得を期待される業務能力のみならず、指導に当たる教職員の業務自体の根本的な変革をも意味しています。私は「顔と顔を突き合わせる」関係から「肩と肩を並べる」関係が、学生と旧職員の関係になっていくのではないかと見込んでいます。

これからは、新しい職業教育の革新に迫る研究がより一層求められるでしょう。学園の教職員各位は、リスクリングも視野に入れながら、自分たちの取り組みの共有を図ることがより一層重要になると考えられます。FD/SD というのもその活動の一環です。

本号には、職業教育方法に関する実証やスキル開発に関わる基礎研究など多様な論考が公刊されました。しかし、当初、予定されたがやむない事情で次号での投稿に切り替えられた方もおられます。まだまだ潜在的な公刊ニーズがあるといえます。電子ジャーナル化した本誌がますます多くの方々の論考発表の場となることを期待しています。

(編集委員長 小川 全夫)

弊ジャーナルへのアクセス、そしてお読みいただき、ありがとうございます。そして、ご執筆いただいた著者各位、査読委員をはじめとする関係各位に感謝を申し上げます。ありがとうございます。

この第8巻第1号は、紙媒体からの移行最初の号であり、間もなくリリースされるサイト確認をしながら、この編集後記を書いております。紙媒体の良さもありますが、手前みそながら、より多くの読者のもとにお届けすることができ、これまでに執筆いただいた多くの論文・バックナンバーも検索・再読しやすい状態にでき、投稿を通し研究者の皆さんが繋がるきっかけが増える（と考えております）電子ジャーナル、ぜひとも研究発表の場としてご活用いただけますと幸いです。

研究発表の場としましては、前号にも記載しました弊社主催の「第21回職業教育研究集会」を本年10月26日（土）10-13時（終了時間予定）オンラインにて開催いたします。詳細は後日、ホームページでご案内いたしますが、口演発表のご検討もいただけますと幸いです。

(編集事務局 杉山 真理)

— 「敬心・研究ジャーナル」査読委員一覧（50音順：敬称略）（2024. 6. 1現在） —

阿久津 撰	安部 高太朗	天野 陽介	伊藤 正裕	稲垣 元	井上 修一
今泉 良一	上野 昂志	王 瑞霞	大川井 宏明	大谷 修	大谷 裕子
岡崎 直人	小川 全夫	奥田 久幸	小澤 由理	小関 康平	川廷 宗之
菊地 克彦	木下 美聡	近藤 卓	坂野 憲司	佐々木 清子	寫末 憲子
白川 耕一	白澤 政和	杉野 聖子	鈴木 八重子	武井 圭一	東郷 結香
中井 真悟	永嶋 昌樹	橋本 正樹	浜田 智哉	町田 志樹	松永 繁
水引 貴子	南野 奈津子	宮嶋 淳	八城 薫	安岡 高志	行成 裕一郎
吉田 志保	吉田 直哉	渡邊 眞理			

— 「敬心・研究ジャーナル」学校法人敬心学園 編集委員会（2024. 6. 1現在） —

委員長	小川 全夫	（職業教育研究開発センター、九州大学名誉教授、山口大学名誉教授）
副委員長	阿久津 撰	（日本児童教育専門学校）
学術顧問	川廷 宗之	（大妻女子大学名誉教授）
委員	小泉 浩一、黒木 豊域、浜田 智哉	（日本福祉教育専門学校）
	柴田 美雅	（日本リハビリテーション専門学校）
	稲垣 元、王 瑞霞、住吉 泰之	（日本医学柔整鍼灸専門学校）
	五嶋 裕子	（東京保健医療専門職大学）
	水引 貴子、木下 美聡	（客員研究員）
事務局	杉山 眞理、清水 絵里、内田 和宏	（職業教育研究開発センター）

## 〈執筆者連絡先一覧〉

専修学校の職業教育の社会的位置づけについて

東京大学大学院教育学研究科 教授 本田 由紀

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

子どもの親化としてのヤングケアラーに関する尺度開発および家族スタイルとの関連性に関する研究

— 東京保健医療専門職大学の作業療法学科・理学療法学科1年生における検討 —

東京保健医療専門職大学リハビリテーション学部  
作業療法学科 小野寺 哲夫

〒135-0043 東京都江東区塩浜2-22-10

E-mail: onodera408@tpu.ac.jp

二年制保育者養成校における幼稚園実習期間の検討

— 実習園と学生へのアンケート調査より —

日本児童教育専門学校 水引 貴子

リハビリテーションによる脳血管障害者のスピリチュアリティの評価モデルの検討

— 1事例の分析からの一考察 —

東京保健医療専門職大学リハビリテーション学部  
作業療法学科 坂本 俊夫

〒135-0043 東京都江東区塩浜2-22-10

E-mail: t-sakamoto@tpu.ac.jp

介護福祉職の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対応の経験に関する研究

岩手県立大学 社会福祉学部 松永 繁

〒020-0693 岩手県滝沢市菓子152-52

E-mail: shigeru\_m@iwate-pu.ac.jp

旧優生保護法の司法判断

— 大阪高裁2023（令和5）年3月23日 —

日本社会事業大学 梶原 洋生

〒204-8555 東京都清瀬市竹丘3-1-30

保育マップ型記録の前段階としての経過記録の対象

大阪公立大学 吉田 直哉

〒599-8531 堺市中区学園町1-1

E-mail: yoshidanaoya@omu.ac.jp

日本の保育ドキュメンテーション論が前提とする〈学び〉観

大阪公立大学 吉田 直哉

〒599-8531 堺市中区学園町1-1

E-mail: yoshidanaoya@omu.ac.jp

促通を目的とした即時効果が実感できる運動プログラムの有効性

早稲田大学 非常勤講師 包國 友幸

幸福度と「推し活」についての一考察

東京保健医療専門職大学 教授 宮田 雅之

〒135-0043 東京都江東区塩浜2-22-10

E-mail: masayuki.miyata@tpu.ac.jp